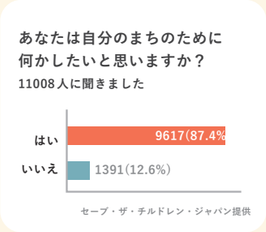
ANNUAL REPORT 2022

石巻市子どもセンター

らいつ

Ishinomaki City Children's Center

石巻市子どもセンターができた経緯



震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下「SCJ」という）は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市の3つの地域で子どもまちづくりクラブを発足させました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、“夢のまちプラン”を作成し、そのプランを市に提案しました。“夢のまちプラン”の中の色々な想いを一つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」（以下、子どもセンター）です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。

子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所

子どもセンター 条例前文

子どもは一人の人間であり、子ども一人ひとりが生まれながらに権利を持っています。子どもが幸せに健やかに成長するためには、多くのことが必要であり、子どもたちは次のように語ります。

私たちを中心に、話し合ったり、ふれあったり、交流できる場が必要です。
それにより、大人も含めた幅広い年代の人とのつながりを大切に、絆を深めることができます。
みんなが楽しめて、ゆったりできる場が必要です。それにより、私たちは安心して心と体を休めることができ、笑顔が増えます。
私たちが運動できる場が必要です。それにより、体を動かして楽しく遊ぶことができ、心身ともに、健康に成長することができます。
私たちが学べる場が必要です。それにより、お互いに教え合い、考えることを好きになり、理解することの楽しさを知ることができます。
私たちが自由に社会に意見を発信できる場が必要です。それにより、自主的に活動できるようになります。
さらに、まちの未来について考えることが地域の活性化につながり、さらに多くの人に私たちのまちのことを知ってもらうことができます。
だから、私たち子どもが中心となって活動する子どものための施設をつくっていきたいです。

石巻市は、この子どもたちの想いを形にするための施設となる石巻市子どもセンターを設置することにより、生まれながらに持っている子どもの権利が尊重され、子ども一人ひとりが幸せで健やかに成長できる社会につながることを期待し、ここに「石巻市子どもセンター条例」を制定します。

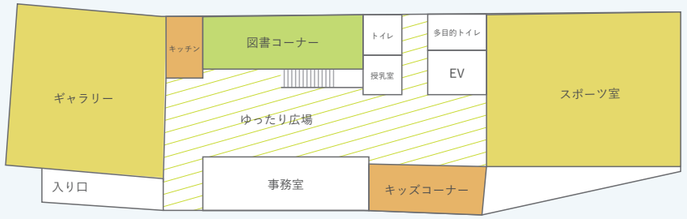
自家野菜を育てている屋上。
イベントスペースとしても使用可能。

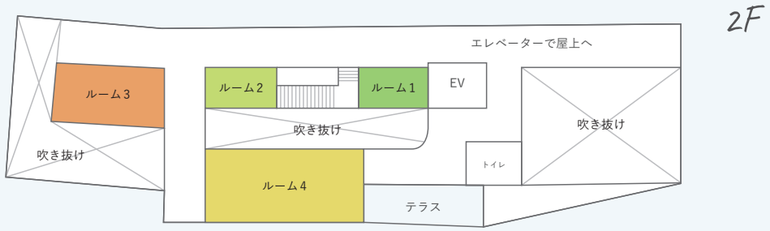
木のおもちゃやベビーベッドもあり
0歳から安心して遊べます。

飲食可能なフリースペース。
使い方はあなた次第。※

防音室。楽器の練習が可能。
ギターやアンプの貸し出しもあります。

Room4 勉強やミーティングに
活用できる個室。





材料を持参すればいつでも使用可能。
オーブンやホットプレートもあります。※

ゆったり寝ころんで本が読めるスペース。
漫画や小説がずらり。

飲食可能なオープンスペース。
友人とゆっくり過ごすのに最適。※

バスケ、卓球、バドミントンなど
プレイ可能。ダンスの練習にも。

子どもセンターのメインスペース。
ハイルーフでインスタ映え間違いなし。
ソファでゆったりもできます。

※新型コロナウイルス感染対策のため、飲食に制限があります

子どもセンター 事業体系図

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。
子どもの権利には生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。
この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

- 子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

- 子どもまちづくりクラブ
- 子ども会議
- 子ども企画
- Big Voice
- まきトーーーク
- 子ども実行委員企画イベント
  - 石巻ハロウィン祭り・夏祭り・らいつの日008

子どもエンパワー事業

- アートラボ
- 料理王
- Earth Teens
- 中高生タイム
- 青春力 -Youth Power-

子育て支援事業

- 親子ではぴ☆はぴ
- 親子でほかほか
- 音楽であそぼう！
- ベビーマッサージ
- パパ講座
- Mカフェ
- あったかぽかぽか運動あそび
- 休日子育て相談

企業・地域との連携事業

移動児童館事業

- 蛇田地区
- 牡鹿地区
- 鹿又地区

研修事業

- 子ども子育て支援者講座

子どもの権利啓発

- 子どもの権利月間

子ども参加事業

子どもの権利に基づき運営や事業に子どもの声を活かすとともに、子どもがアクションを起こし、子どもの声を社会に発信する、子どもセンターの核となる事業です。

子どもセンター運営会議

子どもセンターの運営について話し合い、最終決定をする場です。子どもの声を反映して運営されるように、大人委員5名（地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている方）、子ども委員5名（子どもまちづくりクラブから2名、子ども会議から3名）で話し合います。子ども委員も大人委員も一緒になり、子どもセンターがよりよいものになるように考え、意見を出し合って決定しています。

3月　利用者アンケート・利用者状況　報告・検討
6月 子どもまちづくりクラブと子ども会議の活動報告、まきトーーークの報告
10月　Big Voice報告、子どもまちづくりクラブの活動報告、来年度の事業内容検討

代表メンバーが参加

子どもまちづくりクラブ

いままでの活動

石巻市子どもセンターらいつ企画デザイン、立町大通り商店街マップ作成や震災を風化させないためのモニュメント制作、水産イベントの実施、石巻の歴史マップづくり、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まちフラッグ」の制作、アニメ・マンガをテーマにしたまちなかイベント（まきコミ祭）の開催、ハコブネ。応援プロジェクト、魅力発信プロジェクト食べ歩きツアー、防災リベンジャーズ（防災マップづくり、意見交換会の開催など）

今年は、SDGsの「⑪住み続けられるまちづくりを」をテーマに行った「まきトーーーク」で出てきた意見の中から、「まちおこし」「公共スペース・居場所づくり」をキーワードに活動を開始。夏休みには、視察先の検討からメンバーが行う形で、岩手県陸前高田市と宮城県気仙沼市でまちづくりに取り組む団体・施設への視察見学ツアーもしました。
その後、らいつ館長へのインタビューや、メンバー同士での意見交換をする中で、「いま石巻にいる人のために居場所がほしい。」「帰ってくる場所があることが大切。」という意見から「居場所はまちおこしにもつながる！」と、「居場所づくり」を柱に活動を進めていくことになりました！
今後は、市内の居場所づくりに取り組む団体への見学・インタビューを行い、実際に自分たちでどんなことができるか話し合い、アクションをしていく予定です。

参加メンバー：小学生2名、中学生5名、高校生5名

《2022年の活動》

1月　防災リベンジャーズ企画準備
2月　防災リベンジャーズ企画準備
3月　防災リベンジャーズ開催、年間活動振り返り
4月　防災マップの配布
5月　まきトーーーークにて活動報告
6月　今年度の活動テーマ検討
7月　まちづくり見学ツアー視察先検討
8月　まちづくり見学ツアー実施
9月　今年度の活動のねらい確認①
10月　今年度の活動のねらい確認②
11月　らいつ館長へのインタビュー実施
12月　今年度のプロジェクトアイデア出し

子ども会議 〈らいつ会議〉

子ども会議では、らいつの利用方法に子どもたちの声を反映するため、小学4年生から高校生までのメンバーが月に1・2回集まり、様々な意見を出し合っています。「子ども会議という名前だと何を話し合っているのかわからない」「子どもってつくと中高生は参加しないかも」と意見を出し合い、らいつのことを話し合っていることがわかるように、今年から「子ども会議」改め「らいつ会議」と名称を新しくしました。また、「自転車のとめ方が気になる」という声から、自転車を停めてほしいところにチョークで白線を引くことを決め、メンバーで実施しました。
今後も子どもたち自身で課題を発見し、らいつが過ごしやすくなるように話し合っていけるよう活動を続けていきます。

参加メンバー：小学生7名、中学生４名、高校生2名

《2022年のらいつ会議の議題・活動》

子ども会議の今年の目標・議題について／まだ話し合っていない議題について／見守り隊について／制服のおさがり会について／自転車の駐輪の仕方について／ BIGVOICEについて／運営会議の発表について／タブレットの貸し出しについて／石巻市子どもの権利標語の「らいつ賞」について／1年間の振り返り／「子どもの権利に関する標語コンテスト」の表彰式への参加／子どもの権利条約フォーラム2022in那覇／沖縄への参加

子どもセンターの愛称「らいつ」

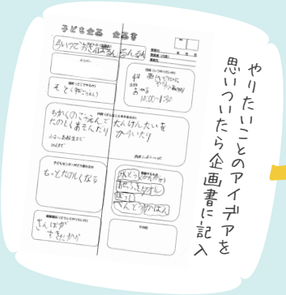
全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして2014年4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた“らいつ”が選ばれました。“らいつ”の由来は、英語でrights（権利）lights（ひかり）の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。

Wi-Fi設置

利用者から「らいつにWi-Fiをつけてほしい！」という声が多くあり、Wi-Fiがあることでらいつがどう変わるのかや、メリットデメリットを話し合う「Wi-Fi会議」を開催。約2年かけて何度も会議を重ね、これなら安全に利用できる！というルールを子どもたちで決め、運営会議で報告・決議され、らいつにWi-Fiをつけることになりました。それにより、2020年10月から、らいつでWi-Fiが利用できるようになりました。

子ども企画

子どもたちの「やってみたい」をカタチに！いつでも自由に子どもセンターでやりたいことを提案できます。普段やりたいことがあっても、なかなか実現できない子も、子どもセンターでは、職員のサポートを受けながら、実現させることができます。自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることのむずかしさ、そして企画が成功したときの達成感を感じることができます。今年行った企画は予約せずとも、その場にいるだけでなんとなく参加できて楽しめるような企画が多くみられました。11月に行った冬の写真コンテストでは利用者に写真データを募集して、館内に張り出した写真を見て自由に投票してもらう方式で気軽に参加することができました。



やりたいことのアイデアを思いついたら企画書に記入

できた企画をみんなに伝えよう

承認されたらいざ準備

みんなで思い切り企画を楽しもう

①子どもたちから提案された企画は、遊びに来ている小学生・中学生・高校生各1人ずつの3人以上の子ども　たちによって、やるかどうかの議論を行います。
②楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認されます。

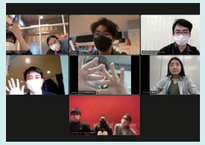
提案者	内容	結果	実施日	参加人数
中学生	宮城冬の写真コンテスト	承認	11/23	7人
高校生	よみきかせ	承認	12/11	7人
高校生	ラジオ	承認	12/11	8人
小学生	らいつオリジナルスタンプラリー	承認		
高校生	虫とり体験	承認		
小学生	しょうがい物きょうそう大会	承認		
小学生	とうそう中2だん	承認		
高校生	放送部	承認		

※実行委員との同時開催企画はP10を参照

他施設との合同企画

復興の未来へ行こう！ワカモノプロジェクト(東京都調布市)と合同でオンラインイベントを企画実施しました。

3/26　防災意見交換会　6人
8/16　オンラインTRPG会　7人
11/26　オンラインTRPG会　4人



部活動

子ども企画をきっかけに継続的な場をつくりたいと「部活動」もスタートしました。
今年は子ども企画でやったラジオをきっかけに、「放送部」が発足。
らいつのラジオは防音室のルーム３で、館内放送につなげたマイクを使って館内にのみ放送します。あらかじめ利用者にとったアンケートをお便り風に紹介したり、ラジオブースのルーム３に利用者の子をゲストに呼んだり、マイクを持ちながらゲリラ的に利用者や職員にインタビューしたりと、回を重ねる度に本物のラジオ放送さながらの番組になっています。
ラジオをきっかけに多世代の交流が増えたり、いい出会いの場にもなったりしているようです。

Big Voice

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBigVoiceをらいつ会議メンバーが毎年、企画実施しています。
今年は、らいつでやりたいイベントやRoom3の使用時間、あったらいい乳幼児親子向けのおもちゃについて聞くアンケートをとったり、らいつにおいてほしい本やボドゲについて聞く模造紙のアンケートを作成したりしました。
BigVoiceで出された意見は、らいつ会議で集計した後、運営会議で報告し、各事業や利用方法に反映しています。

まきトーーーク

5月8日（日）大人（オブザーバー）8名
小学生5名　中学生4名　高校生3名　合計20名

石巻が、SDGｓ未来都市に選定されていることを受けSDGｓの17の目標のうち「⑪住み続けられるまちづくりを」をテーマに開催しました。サブタイトルである「まちガチャ、いしのまきをＲからＳＳＲ計画」から，自分たちが住んでいる石巻がどれくらいのレア度なのか、どうやったらＳＳＲのまちになるのか話し合いました。
その後、まきトーーークで出てきたアイデアを石巻市長に子どもの声を届けよう！と、小学生から高校生までの子どもたちが集まり、作成したワークシートを見て頂きながら特に伝えたいこと、意見が多かったことを提言しました。参加したメンバーからは、「市長さんもいろいろ本気で考えているのだなと思った」「これからも地域について考え、アイデアを出していきたい」と、直接市長に自分たちの意見を届けることができて、充実した様子でした。

子ども実行委員企画イベント

らいつでは、子どもたちが参加しやすい子ども参加の仕組みの一つとして、年に数回、子ども実行委員を募集して、子どもたちが主体となってイベントを企画運営しています。

「ねずみくんのチョッキ展」と「いしのまきねこフェス」にちなんでタイトルは「ねことねずみと七変化」

石巻ハロウィン祭り

2014年に子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて「商店街でハロウィンパーティを開催する」を提案・実現したハロウィン祭り。子ども参加×地域との連携で今年も開催。コロナ禍で希薄になった地域の人との関わりを取り戻したい、みんなにまちを歩いてほしいという思いで、お店に貼られた謎を解きながらお菓子をもらう、まち歩き企画が立ち上がりました。感染症対策として6日間に分散開催。その他、ステージ発表や子ども企画としてハロウィン衣装づくりやデコレーションしたマスクの配布もしました。

子ども企画：ハロウィンいしょうづくり、マスクデコレーション、ステージ発表
実施日：10月21日（金）～10月23日（日）、10月28日（金）～10月30日（日）の6日間
参加者：772名　実行委員・企画委員：10名
協賛：アイトピア大町会、アイトピア銀座会、立町大通り商店街振興組合、中央一大通り会、橋通り商店街振興組合、いしのまき元気いちば
協力：一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまんぼう
配布協力店舗：46店舗

ゼロエイト

らいつの日００８

開館から毎年開催される周年記念イベント「らいつの日」、今年は『008』。有志の子どもたちが実行委員となり「スマイル　新たならいつ、未来へつながれ」をテーマに企画を考えました。いろいろな人とつながり、感謝の気持ちを伝えることで自分も相手も笑顔になる。生まれ変わっていくらいつが未来までつながっていってほしいという想いを込めました。
子どもと大人が一緒になっておしゃべりをするワールドカフェでは、「未来のにぎやかな商店街」がテーマ。最終的に話し合ったことを市長や商店街の方に伝えたいと考えていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、らいつが休館に。休館中に、実行委員とオンラインで集まり、「らいつの日008」を延期にするか中止にするか話し合いました。「いつイベントができるのか、わからないことが不安」「また延期になってしまうのではないか」という子どもたちの声もあり、2月にイベントができない場合は中止にしようとみんなで決めました。2月まで休館になったため、開催を断念する結果になりましたが、企画したイベントはまた別の機会に行おうと実行委員と話しています。

実行委員：7名

夏祭り

夏祭りは子どもたちがやりたいことを自分たちで企画し、店長となって準備していきます。去年に引き続きコロナ対策として２日間に分けての開催。実行委員メンバーが、「世代関係なく夏祭りに来るすべての人が楽しめる」をテーマに、様々な企画を考えました。締めの盆踊りで幼稚園、小学生を中心に実行委員の高校生やボランティアの大人も巻き込みながら踊る光景は今年のテーマにピッタリでした。

＜子ども企画＞
デュエマ大会、射的、スーパーボールすくい、お化け屋敷、段ボール迷路、お面づくり、盆踊り
実施日：8月19日（金）・20日（土）　　参加者：192名 実行委員：11名

子どもエンパワー事業

子どもの様々な興味関心を引き出し子どもが地域や社会とつながることで、自分のもつ力や可能性に気づき、次の一歩を踏み出すきっかけをつくります。

今年の料理王は、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

アートラボ

芸術体験を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることのできる事業です。自分の気持ちや言葉をうまく表現できない子どもたちにも、様々な方法で思いを伝えられることを知ってほしい、自分の可能性を広げてほしいと取り組みました。今年は女川や雄勝の素材を使う企画や、地域の方たちとつながる機会が多く、表現活動を通して地域を知ることができました。

1月　竹あかりをつくろう　FOREST KEEPERS ONAGAWA　8人　/　6月　雄勝石でハーバリウムを作ろう　今野琴美　9人　/　7月　牧山であそぼう！　子どもセンター職員　8人　/　12月 バンドしようぜ！　モノクローム　4人

中高生タイム

毎週土曜日の5時過ぎは中高生世代貸し切りタイム！ひとりでゆっくり、仲間と集まりつながる場、また地域の大人と交流する場として今年から「中高生タイム」を始めました。実際に美容師さんをお呼びしたときは、メイクの仕方などを教えてもらいました。中高生世代の特別な時間として、フリードリンクや服のおさがりを準備。来ている中高生は、ゲーム対戦をしたり、スポーツをしたりと自由に過ごしています。

年間参加者　306名
毎週土曜 17:15 ～ 18:45 開催

中高生世代のフリードリンク

Earth Teens

「とってたら女川の海産物だ！」

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」「考えたい」気持ちを育てる事業です。子どもたち自身が社会課題を見つけ地域とつながれるようにと取り組んできました。今年は昨年田んぼでお世話になった赤間里山農園さんで栗拾いをしたり、「海のなかをのぞいてみよう」では昨年悪天候で乗れなかった船に乗れたり、継続的に地域に関わることができました。今後も地域資源と関わりながら、子どもたちの様々な発見のきっかけになるように取り組んでいきます。

3月　キボッチャにいってみっちゃ！キボッチャ職員　6名　/　5月　らいつの屋上で野菜を育てよう～次世代の畑2022～　サントリーフラワーズ（株）　6名　/　8月　海のなかをのぞいてみよう　Ishinomaki Save the Ocean Project（ISOP）　9人　/　9月　栗拾いに行こう！　赤間里山農園　13名　/　10月らいつでハロウィンパーティー　子どもセンター職員　12名　/　11月　はじめてのたき火　子どもセンター職員　10名

青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることができる事業です。様々なテーマの企画や、みんなで交流できる企画を開催することで、多様な興味関心をもつ中高生がらいつに足を運ぶきっかけづくりに取り組んでいます。今年は、大学生や社会人の方に大学や職業について話を聞く「進路カフェ」、運営会議での子どもたちの声から実現したスキンケア講座「スキンケアしてる？」などを開催しました。

3月　卒業進級パーティー　子どもセンター職員　12名
5月　進路カフェ　地域の大人、らいつOB・OG　8名
8月　浴衣でまちなか花火　かめ七呉服店（着付け）　6名
11月　たき火を囲もう　子どもセンター職員　8名
12月　スキンケアしてる？　資生堂ジャパン株式会社　4名

子育て支援事業

仲間や地域とつながり、いっしょに育ちあうことを大切に実施。子どもの権利を大切にしながら、子どもの育つ力を引き出すイベント、親子でホッと安心できる場づくりをしています。

Mカフェ

年間参加者数　923名
毎週月曜開催

『乳幼児親子がホッと一息つける場所』をテーマに開催。子どもだけでなく、ママ達のおしゃべりの場にもなっています。奇数月にファミリーサポートセンター、月１で病後児保育室ミルクの看護師、年に2回石巻市図書館や市内の歯医者さんもお招きし、様々な相談や交流の場にも。お下がり交換会も実施し、持ち込む方・持ち帰る方両方に喜ばれました。

休日子育て相談

土曜日及び日曜日も子育てに関する相談を行っています。11時から16時は『休日子育て相談員』がいますので、子どもと過ごしながらゆったりと相談することができます。

ベビーマッサージ

年間参加者数 98名
毎月１回開催

ハイハイまでの乳児親子対象。わらべうたに合わせて、親子のスキンシップの方法や赤ちゃんの権利、発達、社会参加の視点の大切さを学ぶとともに、ママの情報交換の場にもなっています。毎月開催され、児童館デビューのきっかけにも。

親子でほかほか

年間参加者数　78名
隔月１回開催

助産師チームと『やさしい抱っこやおんぶの方法』『おんぶグッズの使い方』などをお話しながら実践を通して学ぶことができる『抱っこおんぶ講座』を開催しています。抱っこやおんぶには赤ちゃんの権利の視点がいっぱい。初めておんぶに挑戦する方も多いです。

あったかぽかぽか運動あそび

年間参加者数104名　毎月１回開催

もっと体を動かしたい！３歳から６歳児対象。今年は年齢に合わせて「満3歳と年少」「年中と年長」「初参加や慣れていない子」と３部構成で開催。幼児体育あそびインストラクターをお招きし、鉄棒やとび箱、マット運動など、広いスポーツ室で思いっきりからだを動かしています。様々な動きをすることで、自分のからだの使い方を知る機会にも。

親子ではぴ☆はぴ

年間参加者数　147名
年３回開催

０歳児親子を対象にした５回連続講座。地域で活躍する様々な方を講師に招き、週替わりで子育てに関するテーマの講座を実施。毎回活動後に残っておしゃべりをしながらママ達がゆっくりする姿も！最後にはみんなでサークルをつくるなど、子育ての輪が広がっています。

音楽であそぼう！

年間参加者数　239名
毎月２回開催

しっかり歩く１～２歳児対象。音楽に合わせて歩いたり、時には動物に変身したり、楽器やボールなどを使ったりと、親子で楽しくからだを動かします。最後にはお絵描きやシール貼りなどのプチ製作の時間も。毎月２回開催なので、習い事のように通う子も。ママの運動にもなっています。

パパ講座

7月17日開催
参加者数16名

今年は男性保育士をお招きし、『パパとあそぼう！』を開催。わらべうたに合わせたパパと子どものふれあいタイムや、大型絵本、パパならではのダイナミックな動きで子どもたちも喜んでいました。後半は大量の紙コップを用意し、積んだり重ねたり倒したり。パパ達が集中して楽しむことで、子ども達も夢中になって遊んでいました。パパ講座は、パパのスキルアップにも、ママのリフレッシュの時間にもなっています。

移動児童館事業

児童館で遊びたい！でも遠くてなかなか行けないという声を受け、移動児童館「あそびばらいつがやってくる」を開催しています。
昨年に引き続き、震災による人口移動で子どもの数が増加した蛇田地区での遊び場の開催を月１回実施しました。また、らいつから遠方にある牡鹿地区や、遊び場ニーズが高まっている鹿又地区でも1回ずつ実施しました。

蛇田地区

定期的な開催により、どんなことがしたいか子どもたちとスタッフで相談することも増えてきました。同じ学校でも顔が知らない同士の子どもたちが出会うきっかけにもなっています。

3月27日(日)15名　4月24日(日)19名　5月29日(日)86名
6月26日(日)30名　9月25日(日)17名　10月23日(日)35名
11月27日(日)36名　12月30日(金)26名

協力：石巻市社会福祉協議会、中埣二町内会、石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

牡鹿地区

新しく整備されたホエールタウンおしか捕鯨船前広場で開催。乳幼児親子も参加し、芝生の上での段ボールそりなどを楽しんでいました。

9月11日(日)　26名

協力：石巻市社会福祉協議会、一般社団法人鮎川まちづくり協会、認定NPO法人こども∞感ぱにー

鹿又地区

鹿又小学校を会場に、鹿又地区の社会福祉協議会や民生委員、ジュニアリーダーなどいろいろな方と一緒に場づくりをすることができました。

11月３日(木・祝)109名

協力：鹿又小学校、NPO法人ベビースマイル石巻、石巻市社会福祉協議会、石巻市学校支援地域コーディネーター、河南地区民生委員児童委員協議会、河南アパッチ・ボランティアサークル

各地域の子どもの居場所の課題も見え、コロナ禍での遊ぶ機会の減少や、人とのつながりが希薄になっている今だからこそ、遊びを通して子どもたちや地域の声を聴いていけるよう取り組んでいます。

地域企業との連携事業

子どもたちが企業や地域の皆さんと顔の見えるつながりを持つことで、企業の専門性を知り、多くの大人と関わる機会にしたい。企業や地域の皆さんに、子どもたちの様子や子どもの権利について知って欲しい。そんな思いから、様々なプログラムや活動を実施しています。

※具体的なプログラムについては、エンパワー事業(P11)参照

お茶っこらいつ

2022年５～10月　第４水曜日15:00～17:00　実施
商店街側の中庭に続く大きな扉窓を開け、らいつの中と外の行き来ができる環境をつくることで、地域の方とも挨拶したり、一緒に外遊びやおしゃべりしたりできる機会になっています。中庭にゴザをしいて机やおもちゃを外に出し、だれでも気軽にお茶っこできる場です。

ボランティア受け入れ

若者や地域の方の活躍の機会をつくることを目的に、日常的なボランティアの受け入れをしています。登録の際に子どもの権利を柱に子どもに関わる際に大切にしていることを伝え、考えてもらうオリエンテーションを実施しています。保育・教育現場を志す学生、らいつを利用していた若者、子どもや教育に関心のある大人など県内外から様々な方が来てくれています。

研修事業

子ども一人ひとりが、いまを生きる主体として大切にされ、見守られ育つことのできる地域や社会をつくるために、子どもの権利を軸に多様な視点から学びました。

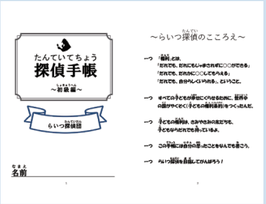
3月17日　こども家庭庁と子どもの権利　　甲斐田万智子氏（認定NPO法人C-Rigths）／11名
6月16日　食を通したつながりづくりと子ども・保護者支援　徳丸由紀子氏（認定NPO法人CPAO）／12名
9月16日　いじめと子どもの権利　新福悦郎氏（石巻専修大学）／20名

※宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会第７地域研修会として実施

子どもの権利啓発

らいつは子どもの権利を柱に子ども参加で運営しています。また、石巻市は、宮城県で唯一子どもの権利に関する条例を制定しているまちです。らいつから子どもの権利・子ども参加を発信して、もっと子どもや保護者と、とりまく地域のみなさまに知ってもらいたいという思いから、11月20日に「世界こどもの日」がある11月を「子どもの権利月間」として館全体を活用して様々な活動に取り組みました。

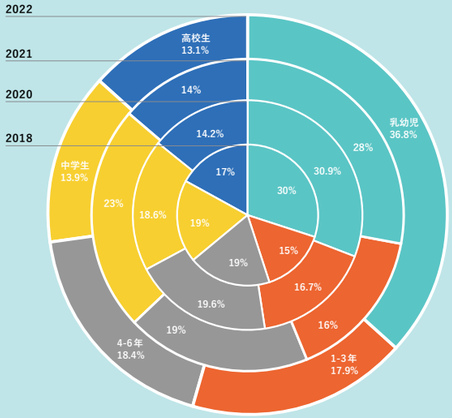
【今年度実施した取り組み】
①子どもの権利に関するオリエンテーション（らいつ探偵）
②ポスターや本の展示
③ラジオ放送（らいつラジオ）



ラジオの様子

データで見る子どもセンター

2022年は、新型コロナウイルスによる臨時休館(1/22~1/31)もあり、利用や活動を制限しながらの開館となったものの、2021年に比べ、一般利用者数が約2000人増加しました。利用者の年齢別割合は、若干乳幼児の割合が増えていますが、らいつの特徴である乳幼児から高校生までの世代が幅広く利用している点は、今年度も変わらず、その傾向が見られます。平日・土日問わず、子どもたちや時には保護者も一緒に遊んでいる様子がたくさん見られ、異年齢での遊びやコミュニケーションの場、子どもたちも自然に子育てに触れる場となっています。2022年の特徴の一つとして団体利用が増加したのは、保育所や小学校の授業の一環として、らいつを利用してもらいながら子どもの権利についても触れてもらうなどの機会や、子育てサークルの利用が活発になるなどの影響がありました。見学希望も全国各地から年間で３００名ほどを受入れ、子ども参加の拠点として注目されていることが伺えます。月別の推移で１０月の来館が伸びているのは地域連携×子ども参加で実施する「石巻ハロウィン祭り」で小学生利用増によるものです。コロナ禍でもできることを、子どもたちと職員で一緒に考え、活動に取り組んだ1年でした。これからも子どもたちの声を聴き、その声を生かし、0歳から18歳までの子どもたちが幅広く利用できるよう環境づくりに取り組みます。

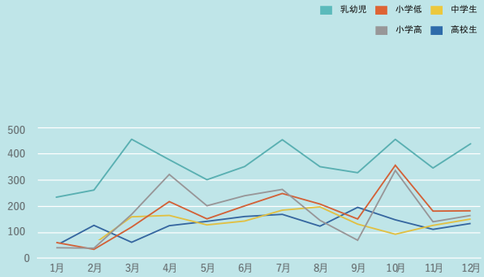


1-12月 一般来館者年齢別割合

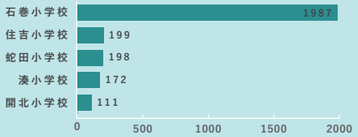
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	おとな	合計	2021年
一般来館	4,416	2,153	2,207	1,666	1,568	3,624	15,634	14,673
定期開催事業	992	206	286	264	316	863	2,927	2,422
行事	244	243	164	60	51	340	1,102	956
子ども企画	64	62	29	9	6	75	245	316
団体利用	73	340	53	46	21	240	773	332
見学	2	17	0	15	15	266	315	225
総合計	5,791	3,021	2,739	2,060	1,977	5,408	2,0996	18,924
2021年	4,473	2,360	2,600	2,986	1,894	4,611	18,924	

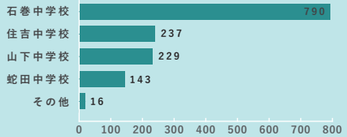
1-12月 一般来館月別年齢別推移



小学校別年間利用者数（上位５校）



中学校別年間利用者数（上位５校）



高等学校別年間利用者数（上位５校）

※2020～2022年は、新型コロナウイルス対策のため、2019年までと入館対応・集計方法が異なり、延べ人数での記載となります。

利用者の声

家にいるより子どもが活き活きと活動している、子どもと向き合うことが出来る。

何年たってもらいつがあってほしい。大人になっても、あったら子どものころの思い出がよみがえるかも知れないから。
らいつは、何年たってもずっとここの石巻にあったら、良いな。

走ってもさわいでもおこられないし、いろいろな人とあそべるし、いろいろなものであそべる。意見をだしたり「こうしてほしい」っていうとかなえてくれる。

らいつという施設を１つでも多く作ったほうがいいと思うぞ。

しょくいんの人はいつもみんなにやさしいし、ともだちがわるいことをしたらちゃんとおこってくれるから、らいつにいてとってもうれしいです。

お部屋が気持ちがいい。
寝るととくに気持ちがいいです。

いろんな経験ができて、
自分たちでやりたい企画ができる。

子ども主体で活動できる貴重な場所です。いつもあたたかい見守りありがとうございます！

子どもにとっての居場所にもなってますが、親にとっても新しい出会いがあったりして、とても充実した大切な所だから。

こどもまんなか ぐるぐるじどうかん

子どもセンターらいつは「こどもまんなか」でもうすぐ１０年。
児童館は子どもたちのための施設。子どもたちの声を聴く、いっしょに考える、いっしょに決めるからこそ、子どもたちが過ごしやすく、日常的にチャレンジとアイディア溢れる場になっています。子どもは今を共に生きている仲間であること、課題を解決する力があること、その力を私たち大人が信じていいことを、地域や社会に発信し、地域に根差していきたいと思います。０歳～１８歳の子どもが利用する施設ですが、１８歳以降も‘チャイルドファシリテーター‘として子どもたちの話し合いのサポートに入ったり、‘ボランティア‘として遊びを見守ったり、社会人となって‘まちづくりに関わる‘ことで、らいつとつながっていたり、‘親になって‘、子育ての場として利用する姿があり、またその子どもが成長し、切れ目なくずっと共に歩んでいける児童館の魅力、居場所の大切さを感じます。ぐるぐる命を見守る児童館をみんなで作っていきましょう～！

2018年4月から運営 指定管理者「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」

「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」は、「NPO法人ベビースマイル石巻」と「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」の2団体で構成されています。指定管理者選定のプレゼンのとき、子ども委員からの「子どもの最善の利益をどう考えますか？」「らいつの構想段階から、子どもたちとつながってきた地域や企業との絆をしっかり引き継いでほしい」「スタッフを変えないでほしい」という声に回答しながら、単なる施設運営ではなく、子どもたちの大切な居場所を守る覚悟が必要だと改めて感じました。子どもの権利を柱に「子ども参加」で子どもたちとともに運営しています。
※石巻市は指定管理者制定の過程においても子どもたちが意見を伝えられるように、子ども委員が設置されました。

らいつ職員が大切にしたいこと10か条

1 職員は、らいつにいる子どもも大人も含めて、ひとりひとりを大切にする（職員同士も）

2 職員は、利用者のあらゆる声（変化や声にならない声も含めて）を聴き、「やってみたい」を大切にする

3 職員は、利用者の気持ちを受け止め、利用者を信じて待つ姿勢を大切にして、見守る

4 職員は、子どもにとって遊びや遊びを取り巻く環境が大切なものであると理解する

5 職員は、子ども自身の思いや気持ちを大切にしながら、子どもにとって何が一番良いか考える。ときには失敗も必要と理解する

6 職員は、誰でも気軽に来やすく安心できる環境をつくるために、利用者との日常的なかかわり・ふれあいを大切にする

7 職員は、利用者と支援する、されるの関係ではなく、一人の人としてお互いに学び・育ちあう関係をつくる

8 職員は、社会・地域・人と人のつなぎ役になるために、多様な引き出し・選択肢を持ち、仕掛けをする

9 職員は、自身の心身の健康・いきいき・ワクワクを大切にする

10 職員は、職員同士のお互いの気持ちや情報を日々共有し、振り返り、子どもセンターの実践を通して、子どもの声や意見、子どもの権利を社会に向かって発信する

石巻市子どもセンター　らいつ

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL:0225-23-1080 / FAX:0225-23-1081

開館時間　9:30 ～ 19:00

休館日　　年末年始、祝日、第1・3木曜日